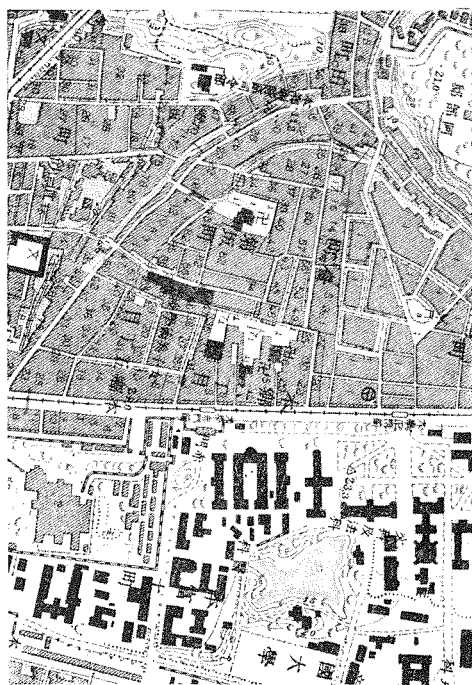




東京市本郷區西片町及帝大附近 aerial 寫眞約 $\frac{1}{3000}$ 縮尺に當る。(昭和5年5月空中作業會社撮影)



同前位置を地圖にて示す

色又は灰白色を呈する。稍乾燥してゐる地域は幾分白く、淺い所亦同じである。

(8) 橋 梁

鐵橋木橋石橋の區別は困難であるが特別の裝置ある橋梁は稍判續し易い。

(9) 渡船場徒涉所

前者は兩岸より河の中央に向つて足跡があり且常に小舟があるが、後者には小舟がない。

(10) 森 林

針葉樹林は、其色が一樣にして中に比較的大きな黒色を呈するものは潤葉樹である、竹林内に於ける針葉樹は稍誤判し易いが、潤葉樹は圓味を帯ぶることによつて、其區別を知る事が出来る。不揃にして諸所黒點が散在するやうに見えるのは混合林である。色が揃

つてゐる整然たる區劃があるのは人工林である。村落内のは多く修成林で入念に點檢すれば針葉樹林、混合樹林、潤葉樹林、竹林、桐（丸く並ぶこと多し）等の區別をすることが出来る。

要するに空中寫眞の判讀は寫眞の梯尺と印畫の良否に係ること勿論であるが、撮影の季節、時刻、地面の乾濕、光線の方向、天候、投影面の狀況、潮の干満等に依つて著しく異なるものがあり、判讀上一定の標準を以て律することが出来ないのは冒頭に述べた通りである。故に空中寫眞を使用する人々は少くとも叙上の條件を寫眞に記入し置くことを忘れてはならない。（以 上）